

決算概要

一般会計の歳入額は、254億4,000万円、歳出額は、246億1,000万円です。翌年度に繰り越すべき財源1億4,000万円を除き、実質収支は、6億9,000万円の黒字となりました。

■主な事業

ごみ処理広域化事業 3億円

ごみ処理施設と地域還元施設の安定継続した設置管理、新ごみ処理施設整備事業に係る負担金など

新型コロナウイルスワクチン接種事業 2億2,000万円

新型コロナウイルスワクチンの接種を実施

住民税非課税世帯等に対する電力・食料品等価格高騰緊急支援給付金事業 2億1,000万円

住民税非課税世帯等に対する給付金事業を実施

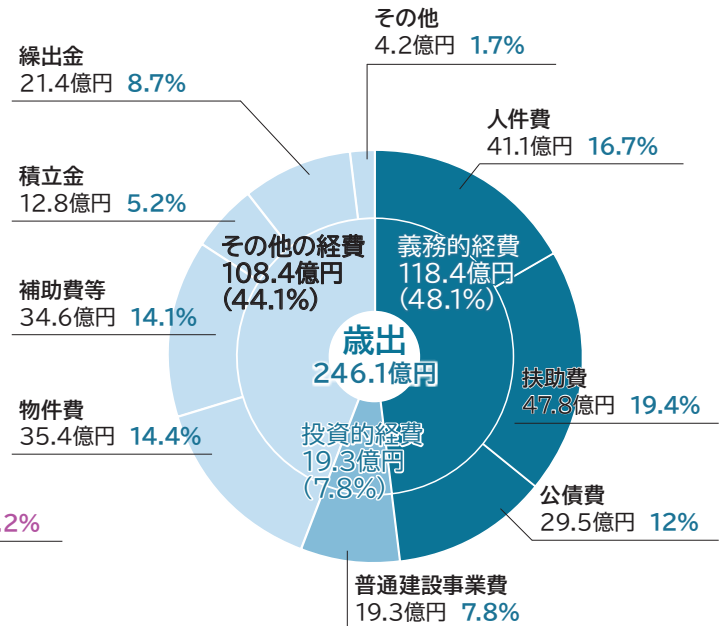
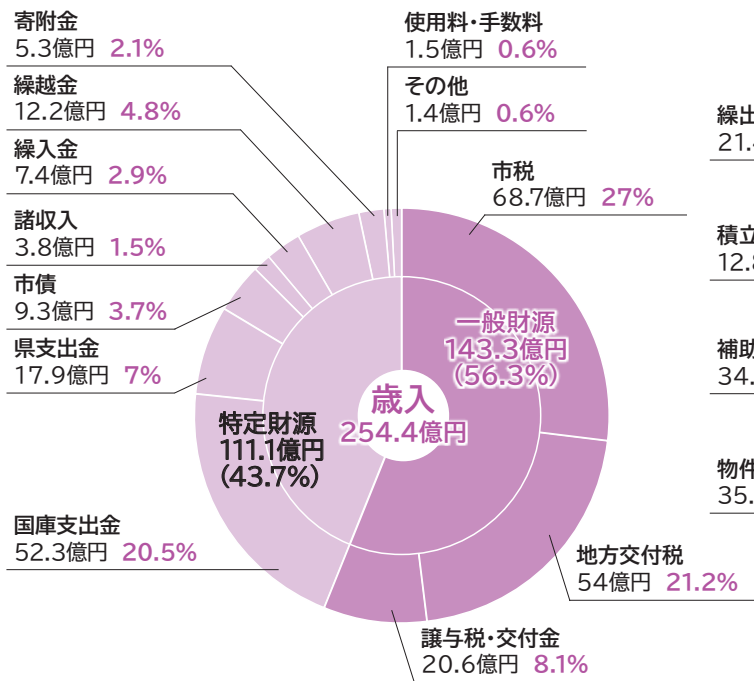
障害者自立支援給付等事業 1億3,000万円

障がい者と障がい児に対する給付金事業を実施

令和4年度の決算が認定されました。小美玉市のお金と財産の現状、今後の課題を確認します。

令和4年度

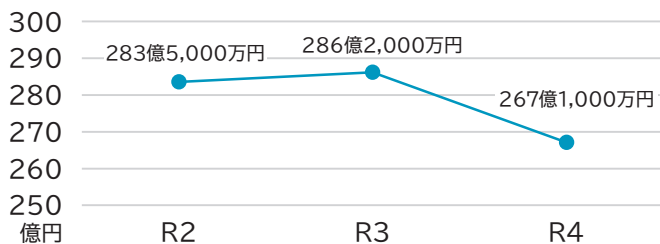
決算



市債と基金の現状

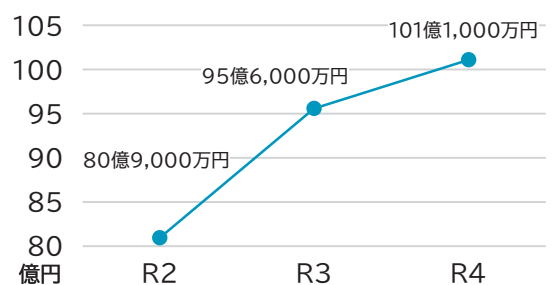
市債(普通会計)とは

学校や道路などの大規模な建設事業には多額の費用がかかります。そのすべてをその年の税金でまかなおうとすると他の事業ができなくなってしまうため、銀行などからお金を借ります。これを「市債」といいます。令和4年度末の市債残高は267億1,000万円です。学校規模配置適正化計画に基づき小学校を統合したことにより廃校になった小学校等の市債を繰り上げて返済したため、前年度末から19億1,000万円減少しました。



基金(普通会計)とは

法律や条例に基づき設置される「基金」は、さまざまな目的のために積み立てた市の貯金です。令和4年度末の残高は101億1,000万円です。廃止された公共施設の解体や再整備に備えるため積立を行い、前年度末から5億5,000万円増加しています。



おみたま家の家計簿

決算額を5,000分の1に縮小し、1か月分を算出して、市の財政状況を家計簿に見立てました。

収入	(1月あたり)	▼前年比
給与(基本給) 市税(市民税、固定資産税など)	11万4,600円	+2,900円
給与(諸手当) 地方交付税、地方譲与税、各種交付金	12万4,200円	+900円
パート収入 諸収入、使用料・手数料、財産収入など	2万200円	△1万4,800円
親からの援助 国・県支出金	11万6,800円	△2万4,900円
ローン(借入金) 市債	1万5,400円	△2万7,900円
貯金引き出し 基金繰入金など	1万2,400円	+4,100円
前年度に残ったお金 繰越金	2万300円	+6,100円
収入合計	42万3,900円	△5万3,600円
貯金残高	202万円	+11万円

支出	(1月あたり)	▼前年比
食費 人件費	6万8,500円	+200円
光熱水費など雑費 物件費(光熱水費、消耗品費、委託料など)	5万9,100円	+4,100円
医療・介護・教育費 扶助費、補助費など	13万7,500円	△9,200円
家の改築・修繕、防災対策 投資的経費、維持補修費	3万8,900円	△3万9,400円
子どもへの仕送り 貸付金、繰出金	3万5,700円	△100円
ローンの返済 公債費(市債の返還)	4万9,200円	+8,400円
貯金 積立金	2万1,300円	△1万400円
支出合計	41万200円	△4万6,400円
ローン残高	533万円	△38万円

令和3年度の学校建設の費用が大きかった分、今年度は親からの援助、ローン(借入金)、家の改築・修繕、防災対策が減った。



大きな事業が終わってきたことで、ローンの借入金は少なくなってきた。このまま借入額を減らしていきたい。



そろそろ家の改築や修繕をしなきゃいけないから、計画的に貯金したい。



財政健全化の判断比率

…小美玉市の財政状況の位置

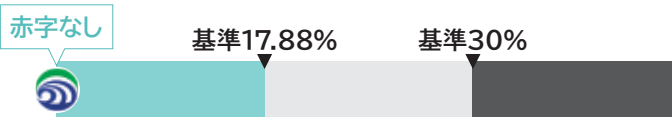
実質赤字比率

一般会計などの実質的な赤字額が、基準の収入に対してどれくらいの割合になるか示すもの



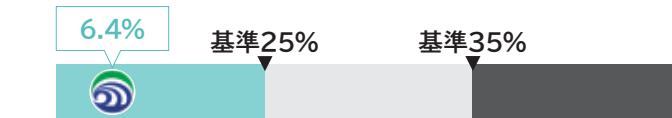
連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、基準の収入に対してどれくらいの割合になるか示すもの



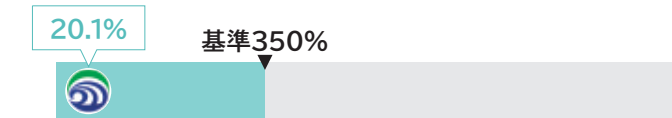
実質公債費比率

一般会計などの実質的な借入金の返済額が、基準の収入に対してどれくらいの割合になるか示すもの



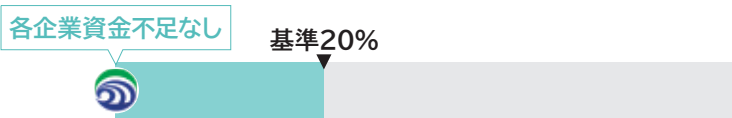
将来負担比率

一般会計などの将来負担すべき実質的な負債が、基準の収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの



資金不足比率

各公営企業の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すもの



今後の財政運営

課題

少子高齢・人口減少社会の進展やコロナ禍の長期化などに伴い、市の財政は厳しい状況にあります。歳入は増加を見込みづらく、歳出は扶助費・公債費の義務的経費のほか、不透明な国際情勢によるエネルギー価格の高騰などにより維持管理費も増加傾向です。また、老朽化した施設の維持補修、廃止した公共施設の解体や再整備などに多額の費用が見込まれます。

運営方針

厳しい財政状況の中、多様化する行政需要や新しい生活様式へ対応するため、小美玉市DX推進計画によるスマート自治体を推進します。限られた経営資源を最大限活用し、財政の健全化を図るとともに持続可能な財政運営に努めていきます。